

「古着の処分+ワクチン募金」 お客にワンコインで提供

古着廃棄コスト削減でエコ!?

日本リユースシステムが考案

資源と中古品を途上国に販売する日本リユースシステム（東京都品川区）が、リサイクルショップ向けに古着の滞留在庫回収サービスを始め、利用すれば廃棄コストを削減できるよくなる。店頭

で販売不可の商品をお客に持ち帰らせるのではなく、海外への募金と抱き合わせて処分費用500円を支払ってもらい引き取る。それを日本リユースシステムに委ねるという仕組み。参加店は、「ワンコイン・エコ協賛店」としてポストやロゴを掲示できる。



▲ワンコイン・エコの案内



日本リユースシステム
山田 正人 社長

店頭で買い取れない衣類をお客に持ち帰らせた、自社で処分費を負担して引き取った。500円で処分を代行するというのがワンコインをお

客に提供する。500円の一部をワクチン5本分の募金にまわし、残りは輸送コストにあてる。

お客の持ち帰る手間を削減すると共に、途上国の子供たちにワクチンを届けるボランティア窓口としての役割も果たすよくなる。

「消費者の中には不要になった衣類をお金にしたいというよりも、処分して持ち帰りがたかぬかぬかと思っている人が多くいます。しかし、それを店側が全て受け入れては余計な在庫がたまり廃棄コストもかさみます。そこで、モノとカネを気持ちよく置いていってほしい、さらに人の役にも立つ仕組みはないかと考えてつくりました」（山田正人社長）

募金は、NPO法人JCVを通して行う。参加店は、「ワンコイン・エコ協賛店」のロゴやポスターをつけて、CSRに活用できる。

日本リユースシステムでは、こうして集めた古着を東南アジアなど途上国に販売する。輸送コストや加工費は500円から拠出するため格安で提供することができ、日本の衣類はクオリティが高く、かねてから高い需要があった。

同社がワンコインという少ないコストで古着の回収が行えるのは、既存事業の資源回収で物流会社と提携し、関東全域と北陸の一部にインフラを持っているからだ。これをリサイクルショップで処分需要のある古着にも転用した。

大手リユース企業と試験運用を行い、成功を収めたことからサービスを本格的にスタートすることにした。日本リユースシステムでは、関東圏で300〜500程度のショップと取引を行い、月間3000トンを集めるという目標を掲げている。